

## 事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業	事業実施計画期間	平成26年～平成30年度(5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	(ちゅうよさんがく) 中予山岳計画区 (愛媛県)	事業実施主体	四国森林管理局 愛媛森林管理署
事業の概要・目的	<p>当事業区は、愛媛県中央部に位置する中予山岳森林計画区の国有林8,619haを対象としている。</p> <p>本計画区は、北は面河川の源流部、南は天狗高原までの愛媛県中央部に位置し、区域面積58,366haで森林はその90%の52,498haとなっている。年平均気温13℃で、平均年間降水量は1,700～2,500mmと林木の生育に適した気候条件下にあり、スギ、ヒノキを中心とした植林が行われており、人工林率は84%となっている。</p> <p>国有林野は、面河川の上流石鎚山周辺と面河川の支流黒川の上流小黒山周辺、遅越山、伊豆ヶ谷山周辺にまとまって分布している。天然林と人工林の比率では、天然林が58%と半分以上を占め、面河山、伊豆ヶ谷山、猪伏山等の周辺にまとまって分布している。一方、42%を占める人工林では、そのうちヒノキの植栽面積が58%となっている。また、6齢級から12齢級が人工林全体の78%を占めているため、適切に森林整備を行っていく必要がある。特に、面河山周辺は石鎚山系森林生態系保護地域に指定されており、自然環境の保全が重要となっている。この生態系保護地域内の育成単層林については、間伐等を繰り返しながら、針広混交林への誘導に努めることとする。</p> <p>このような本計画区の状況を踏まえるとともに、森林に対する国民の要請が、国土の保全や水源のかん養に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等の面で期待が高まるなど、公益的機能の発揮に重点を置きつつ多様化していること、特に地球温暖化の防止、生物多様性の保全については国有林への期待が大きいことを踏まえ、本事業においては、植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備の推進や、このための路網整備を実施し、森林の重視すべき機能の区分に応じた適切な森林整備、間伐材等の利用推進に資することを目的とする。</p> <p>主な事業内容 更新面積 78ha ・ 保育面積 1,250ha            主な保全対象 開設延長 4.8km ・ 改良延長 2.1km            総事業費 1,400,952千円</p>		
費用対効果分析	総便益(B)	6,432,699千円	
	総費用(C)	1,529,092千円	
	分析結果(B/C)	4.21	
森林管理局事業評価技術検討会の意見	森林整備を行うことで、木材生産等を通じた地域振興への寄与及び森林の公益的機能が発揮されることから事業の必要性が認められる。		
評価結果	・ 必要性	地球温暖化防止対策や国土保全、水源涵養及び保健休養等の公益的機能の発揮や木材の安定供給が求められている地域であり、事業の必要性が認められる。	
	・ 有効性	国有林の地域別の森林計画に即した事業内容であり、地域の特性を踏まえた計画的な森林整備により、森林の有する機能を十分発揮させる有効な事業であると認められる。	
	・ 効率性	費用対効果分析の結果から、事業の効率性が認められる。	
		新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能に応じた適切な森林整備が効率的に計画されていると認められる。	

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名 森林環境保全整備事業

都道府県名: 愛媛

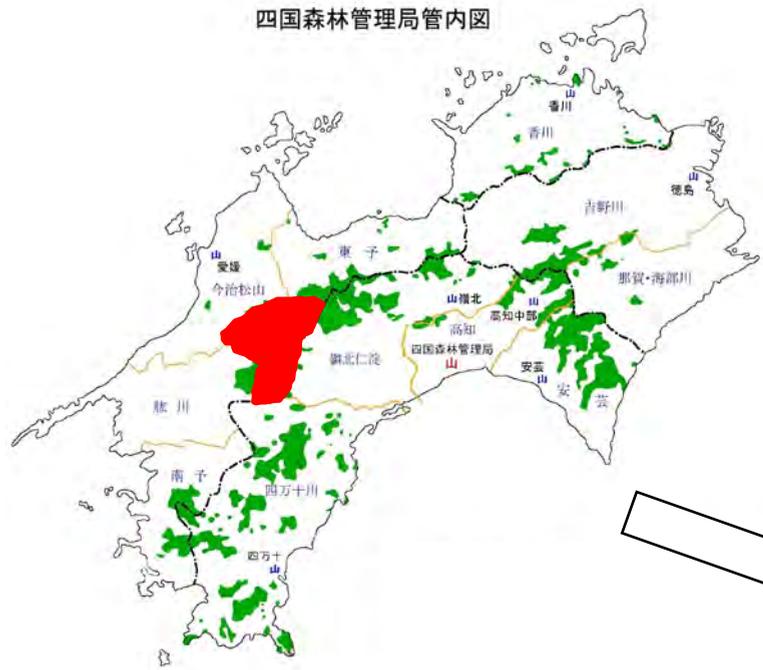
施行箇所 中予山岳森林計画区

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	1,023,521	
	流域貯水便益	486,668	
	水質浄化便益	1,490,129	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,559,294	
環境保全便益	炭素固定便益	492,943	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	77,453	
	木材生産確保・増進便益	676,658	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	10,643	
	森林整備促進便益	615,390	
総 便 益 (B)		6,432,699	
総 費 用 (C)		1,529,092	
費用便益比	$B \div C = \frac{6,432,699}{1,529,092} = 4.21$		

平成25年度 森林環境保全整備 中予山岳計画区(愛媛県) 事業概要図

四国森林管理局管内図



対策計画区拡大図



中予山岳計画区